

ナイス福岡 会報

自然感

くすのき

2021年1月
第 306 号

新年、明けましておめでとうございます。コロナ禍になってそろそろ1年となろうとしています。1人1人が拡散防止のための基本的な行動を遵守し、その行動を日常として受け入れて、継続していくことが、大切だと考えています。辛抱の日々を、何とか楽しめたらとも思います。ナイス福岡事務局



メールを開いて、カラスウリとウスタビガのカットが目に飛び込んできました。良いですね。先日、散策した能古島で見かけたような風景、時間がいつもよりゆっくりと流れているような、そんな印象を受けました。冬枯れの里山の風景の中、カラスウリの印象的な色、会員の皆様はどんな印象を持たれましたか。 田字草

お問合せ： 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka : The Nature Interpreter Society of Fukuoka)

代表：田村耕作／事務局長：小野 仁

編集：田村耕作・山本勝・松永紀代子／会計：宮原俊彦

〒814-0113 福岡市城南区田島3丁目7番14号

田村の自宅内 TEL : 092-844-4381

URL : <http://www.kurabird.com/>

掲示板 URL : <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

★都市公園で自然観察会★

春日公園での自然観察会(116回)は

☆日時 1月16日(土) 10時から12時まで
です。

コロナウイルスの拡散防止のための用心しつつ
開催します。

公園の駐車場もすべて従来通り利用できます。

【連絡先】 担当：田村 耕作

TEL 090-8220-6160 [田村の携帯]

注意 各団体とも、新型コロナウイルス感染拡大状況により、下記の予定も変更になることがあります。
詳しくは各団体にお問い合わせください。

日本野鳥の会 福岡支部 主催 ※一般参加費：300円（中学生以下無料）

1月17日(日) 2月21日(日) 天拝山探鳥会(筑紫野市) 時間：9:00~12:00 集合：天拝山歴史自然公園 問合せ：090-7165-5026(重松尚紀)	1月24日(日) 2月28日(日) 久末ダム探鳥会(福津市) 時間：9:00~12:00 集合：久末ダム多目的広場横 駐車場(管理事務所下) 問合せ：0940-33-7846(高原和幸)	2月7日(日) 今津探鳥会(福岡市西区) 時間：9:00~12:00 集合：玄洋高校西側道路 問合せ：090-8220-6160(田村耕作)
2月13日(土) 大濠公園探鳥会(福岡市中央区) 時間：9:00~12:00 集合：ボート乗り場前 問合せ：092-834-8644(持永俊行)	2月14日(日) 和白海岸探鳥会(福岡市東区) 時間：9:00~12:00 集合：JR和白駅前の公園 問合せ：092-606-0012(山本廣子)	2月2日(火) 県営春日公園(春日市) 時間：10:00~12:00 集合：音楽堂ステージ側(第5P) 問合せ：092-592-3423(小野仁)

日本野鳥の会 筑後支部

1月24日(日)
集合：濃施山公園内すいせん橋
時間：9:00~
問合せ：090-4480-9104(中嶋)
参加可能は会員のみ

福岡植物友の会

問合せ：佃 昇(092-662-2983)
要予約 参加は有料

久留米の自然を守る会

問合せ：0942-43-7959(河内)



ミヤマガラス 三国・松永

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

2月6日(土)
集合：九州歴史資料館駐車場
時間：9:30~12:00(早めに終わるかもしれません)
問合せ：092-920-3072
参加費：大人200円
コロナ対策：ブログにて確認
ブログ「三国丘陵の自然を楽しむ会」で
[検索](#)
観察会や様々な生きもの情報を載せています



三国丘陵の自然を楽しむ会 観察の様子

和白干潟を守る会 主催

1月23(土) 定例会議 時間：12:00~14:00 集合：和白干潟を守る会事務所 問合せ：092-606-0012(山本廣子)	1月23(土) クリーン作戦と自然観察会 時間：15:00~17:00 集合：海の広場 駐車場なし 長靴・軍手があると便利 問合せ：090-1346-0460(田辺スミ子)
---	---



ベニバナボロギク 三国・松永

2020年12月 私のデジカメ日誌より 本のおし

今回は、12月1日(旧暦10月17日)~12月31日(旧暦11月17日)までのデジカメ日誌です。



12月1日(旧暦10月17日) 筑紫野市天拝坂
小春日和に蛹からナミテントウが羽化した。前翅は黒地に赤丸の一番オーソドックスなタイプ。この斑紋のパターンは200種以上だと言われている。でも、それを決めるのはたった一つの遺伝子だそうだ。



12月3日(旧暦10月19日) 筑紫野市天拝坂
部屋の北窓に、やっつツグミの群れがやって来た。昨年の暮れは少なかったのが寂しい感じであった。今年は雪も多いようだが、温暖化とコロナ禍はどうなっていくのか。



12月4日(旧暦10月20日) 朝倉郡筑前町
夜須の里公園の恒例巨大わらカガシ。今年はゴリラである。高さ7mのなかなか圧巻。頭部にスズメが群がっている。材料の稲穂に、まだ米粒が沢山ついているようです。



12月9日(旧暦10月26日) 筑紫野市山口天拝湖
ゴンズイ(権萃・樗)の実である。いかにも小鳥が食べそうな実。だが食べても赤い果皮の中は果肉が無く種だけなので、種子散布に利用されるだけ。魚のゴンズイは役に立たないという意味らしいが、鳥にはそういうことだね。



12月15日(旧暦11月1日) 筑紫野市天拝坂
今年は時折、庭にエナガがやってくる。ふと見ると、じっとこちらを見ている。ミカンの催促か？ 昔、探鳥会で、大匙に卵を乗せると、丁度この鳥くらいですよ…と言っていたのを思い出す。



12月27日(旧暦11月13日) 福岡市博多区千代崇福寺
ニーニーニーと声。御手洗の水をヤマガラが飲んでた。ここは昔の千代乃松原。ずーっと住んでるんだらうね。

くすのき 2020年12月号投稿原稿-本のおし
Nais-fukuoka 福岡県自然観察指導員連絡協議会

春日公園自然観察会 報告

令和2年12月19日(土)【参加者数】4人

【担当者】、田村耕作

コロナウイルスの拡散防止対策のために、自然観察会を中止していましたが、拡散が落ち着き始めた様子から、6月の観察会から開催しています。コロナ対策に配慮しつつ、園内を散策しました。

(報告と写真/田村耕作)

観察コース

自然あそび館～芝生広場・調整池～ショウブ池～カスケード～噴水広場～自然風庭園～自然あそび館

観察内容、

観察内容、冬芽や葉痕を中心に観察

植物 モクレン、ソメイヨシノ、イチヨウ、ドウダンツツジ、ユズリハ、シンジュ(ニワウルシ)、アジサイ、ニシキギ、スズカケ、イヌビワ、イロハカエデ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、マンリョウ、タイワンフウ、アメリカフウ(モミジバフウ)、サンゴジュ、イヌマキ、シマトネリコ

野鳥 カワウ、アオサギ、カワセミ、スズメ、ウグイス、シジュウカラ、ハクセキレイ、キセキレイメジロ、アトリ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、マガモ、ヒドリガモ、アヒル、カワラバト

感想(参加者の声)

- ・イヌビワはイチジクの仲間、イヌビワコバチとの関係が面白かった。
- ・アメリカフウ、タイワンフウ、イタヤカエデの特徴が分かって面白かった。
- ・スズカケの落ち葉の付け根に新しい芽が現れていた。初めて観察した。

観察会風景



モクレンの冬芽の防寒対策



ヤマザクラの冬芽



スズカケの冬芽(左の芽)と 落ち葉の茎に包まれた冬芽(中央)



会員からの投稿(1) 渋田 和美

年末に怪我をしたヒシクイが海岸にいるとの話、多少は飛べる様子。しかし海岸では神社の参拝者などが立ち寄ることもあるだろうと、市職員が干潟に移動させたと聞いておりました。その話を聞き、翌日ヒシクイの様子を見に行ってみるといい。まさかね?と海岸に行くと、多分元いた場所と思われるところにいました。海岸が好きなヒシクイだった模様。

正月に入り、見に行きましたが見つからず。飛べたのか?泳いだのか?どこへ行ったのやら。その時、同じ海岸にミヤコドリ 4羽が飛来。なんだか正月らしく縁起の良さそうな鳥に会えました。

撮影は福津市の海岸線



ヒシクイ 12/29 撮影



ミヤコドリ 1/1 撮影

会員からの投稿(2) 志賀 壮史

SDGs の 17 の目標(その 3)

SDGs(持続可能な開発目標)の 17 の目標を少しずつ取り上げています。

今回は「4. 質の高い教育をみんなに」について。市民一人ひとりに公平に質の高い教育の機会を作るという目標です。途上国での学校建設や職業訓練などを思い起こす方も多いと思います。これには小中学校や高等教育・専門教育だけでなく、小さな子どもたちの就学前教育も含まれます。

日本での就学前教育を考えると、身近に自然があることは本当に大切だなと思います。森の中、草っ原、水辺など自然の中で遊ぶことは、物の感触や物理法則、体の動かし方、仲間とのルールなどを体で感じる学びの場です。ただ、都市部など身の回りから自然が失われた場所では、子どもたちだけでは自由に自然にアクセスすることが難しい。そうすると、親が週末に連れていくこととなりますが、できる家庭とできない家庭があります。

かつて、子どもたちには平等に自然の中で遊ぶチャンスがありましたが、現代の、特に都市部では自然体験の機会は家庭の状況によってバラツキがある印象です。子どもが自分で歩いて行ける場所に小さくともよいので森を残してあげたいな、と思います。

(写真は関係ない森の中で遊ぶ保育園児の様子です)



